

洛北SSHだより

令和7年12月19日発行
第12号
総務企画部



「洛北 SSH だより」では、本校 SSH 事業の取組や様々な情報を発信しています。

1 科学の甲子園ジュニア全国大会で総合成績 第7位！企業特別賞のナリカ賞も受賞！

科学の甲子園ジュニア全国大会は、「科学好きの裾野を広げるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成すること」を目的として行われているもので、今年度で13年目を迎えました(第8回大会は中止)。この第13回大会は、12月12日(金)～14日(日)に兵庫県立武道館(兵庫県姫路市)を舞台に実施され、全国から各都道府県代表の47チームが出場し、筆記競技、実技競技①、実技競技②に取り組みました。本校からは、京都府予選会を勝ち抜いた3名が、福知山高校附属中学校の3名とともに合同チームを結成し、この大会に挑みました。本校は、これが11回目の出場です。この大会に向けて、事前に公開された課題「実技競技② リニアで GO！」の製作に11月から取り組み、大会当日には既定のコースを完走することができました。その甲斐もあり、京都府チームは総合成績7位で記念メダルを獲得。企業特別賞のナリカ賞(1年生を含むチームのうち、総合成績上位チーム)も受賞しました。



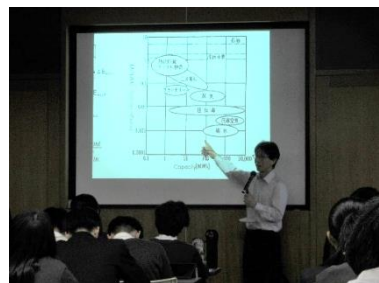
2 本校生徒2名が「化学グランプリ 2025」近畿支部長賞を受賞！

化学グランプリ 2025 一次選考成績優秀者として、高校3年生2名(田淵 光希さん、久野 楓さん)が近畿支部長賞を受賞しました。この賞は、近畿地区の化学グランプリの一次選考受験者の上位10%程度にしか与えられない賞です。今回は高校3年生2名が受賞しましたが、中学生からチャレンジできる大会です。毎年7月中旬ごろに一次選考、8月中旬ごろに2次選考が行われています。化学の面白さ、奥深さ、そして生活との関わりが味わえる良問がそろっているのも、興味のある人はぜひ大会 HP(右の二次元コード)から過去問をのぞいてみてください。その一歩が未来のメダリストへの道につながっています。



3 高2サイエンス科物理選択 原子力・エネルギー教育支援事業特別講義

10月27日(月)、京都大学大学院工学研究科の岩井裕先生に、本校サイエンス科2年の物理選択者56名に対して日本のエネルギーの現状や水素を取り巻く燃料電池などの関連技術についての講義をしていただきました。数あるエネルギー資源の中で、なぜ水素が注目されているのか、また実際に研究をされている固体酸化物形燃料電池の仕組みなどを2時間にわたって説明して頂き、生徒たちも熱心にメモを取りながら聴いていました。今回の講義を受けて、エネルギーを生成・利用するといった普段の生活では意識しない部分にも興味を持つきっかけになってくれればと思います。



4 科学の甲子園京都府予選会

11月15日(土)に科学の甲子園の京都府予選会が実施され、本校は高校1年2名、高校2年6名のチームで出場しました。10問の問題をチームで解く形式で、大会まで何度も放課後に練習するなど準備をし、全員が健闘していました。惜しくも本選出場を逃しましたが、好成績を残すことができました。来年度の高校1・2年生の皆さんの更なる活躍に期待したいですね。



5 京都府立医科大学連携 特別講義「救急医療現場の話を聞こう」

11月19日(水)京都府立医科大学の山畑講師をお招きし、「救急医療現場」についてお話を伺いました。講師は、新型コロナウイルス感染拡大時のダイヤモンド・プリンセス号やタチヒ地震発生直後の現地に派遣され医療支援を行うなど、大学病院で救急医療に携わりながら災害の最前線でも活躍されています。講義は、生徒に問いかけながら進める対話型スタイルで、生徒たちも考えながら積極的に参加していました。参加した生徒からは、「現場のリアルな話が聞けて良かった。」「医療の本質が分かる興味深い内容だった。」「医療系の講座にまた参加したい。」など前向きな感想が多く寄せられました。



6 みやびサイエンスガーデン

11月22日(土)、秋晴れのもと京都工芸繊維大学で「みやびサイエンスガーデン」が開催されました。この発表会に、京都府立スーパーサイエンスネットワーク南部校の6校が集まり、これまでの課題研究の成果を発表し交流しました。本校からは課題探究Ⅱの21班が参加し、アドバンスセミナーに続いて研究成果をさらにブラッシュアップする良い機会となりました。聴衆からの質問にも真摯に、自分たちの言葉で応答していた姿が印象的でした。



7 高1文理コース 生命科学基礎特別講義 「タンパク質の合成と機能発現の分子機構」

12月12日(金)、1年生普通科文理コースで「生命科学基礎」の特別講義を実施しました。講師は、タンパク質研究の第一線で活躍する京都産業大学の千葉教授です。授業では、わかりやすいたとえ話をういてタンパク質の魅力を紹介していただきました。また、アメリカでの研究経験を踏まえ、マイノリティでも専門性があれば認められることなど、世界で学ぶことの強みについても語っていただきました。細胞内で多様なタンパク質が織りなす生命活動には、まるで「宇宙」のような広がりがあることを実感できる、印象深い講義となりました。



8 高1文理コース 文理探究Ⅰでミニ探究活動を実施しました

今年度より高1文理コースでは、新たな総合的な探究の時間の取組として「文理探究Ⅰ」を実施しています。後期からはミニ探究活動がスタート！今年度のテーマは、理系「フィルムケースロケットの飛距離を伸ばすには？(3～6組)」、文系「風景から世界を読み解く(3・4組)」「言葉が違えば世界が変わる(5・6組)」です。テーマに対して自ら仮説を立て、調査方法についても話し合いを重ねながら考案し、実際に確かめる活動に取り組みました。思うような結果が得られず失敗する場面もありましたが、方法を試行錯誤する過程も前向きに楽しむ様子が見られました。

